

小野小学校内には、大津市防災倉庫、小野学区防災倉庫、かまどベンチが置かれています。中には何があるのか、災害時には避難などどうしたらよいか…などという疑問が子どもたちにあったことから、小野学区自主防災会に講師依頼がありました。

そこで、2025年2月3日の社会科学習の授業において、庭山自主防災会副会長が講師となって小野学区の防災状況等を子ども達にわかりやすく授業しました。また、2月7日には、小野小学校内においている非常時用トイレなど、災害備蓄品を実際に見たり触ったりしました。

子どもたちは、普段見ることのなかった防災倉庫の中に何があるのか興味津々で、使い方などいろんな質問を講師に投げていました。

小野学区の災害時に対する備えの一端を見たり聞いたりして理解を深めたようです。

小野小学校5年生(14人)は、社会科「自然災害から人々を守る」という授業の中で、「小野学区の防災」について、グループに分かれ研究し、後日発表会(2月18日)を行なうことになりました。

小野学区防災倉庫



体育館二階



防災ベンチ



授業風景①



授業風景②



「みんなでまな BOUSAI ～めざそう減災～」(社会科学習) 2025. 2. 18

小野小学校、社会科学習における「小野学区の防災についての学習」その2。

2月18日、防災学習の発表を小野小学校体育館でチーム毎に発表していました。



チームは、「災害対策チーム」、「いつでも担架作れちゃいますチーム」、「防災グッズチーム」、「消火器安全チーム」の4つに別れて発表しました。

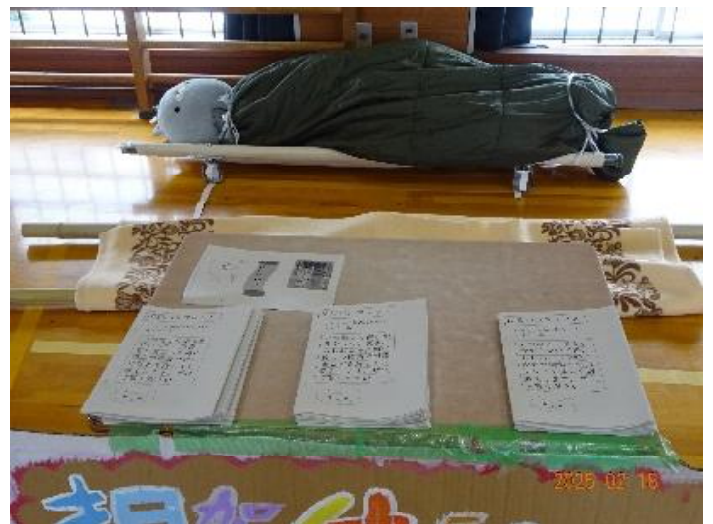
子どもたちは、講師庭山さんから学んだ小野学区の防災体制のことや、自分たちで調べた防災のことをよく理解し、自分たちの言葉で発表していました。防災に対する知識を吸収していることの成果がよく表れていました。

「災害対策チーム」は、プロジェクターを使い、小野学区のハザードマップで危険箇所や、避

難場所経路などをわかりやすく説明していました。また、避難時に使用するパーティションを段ボールで作成し、参加者に使用方法を説明していました。



「いつでも担架つくれちゃいますチーム」は、緊急時に既成の担架がない場合に身近な物でつくれることを説明。竹の棒2本と毛布で作り方を説明していた。父兄に2人1組で実際に作ってもらい、児童を乗せて運ぶなど体験型で説明していました。



「防災グッズチーム」は、避難所で使用するトイレ式を使い、トイレ用テントの使い方、便器の使い方を説明。また、個人で準備しておく防災グッズを実物をみせて説明するなど学習したことをもとに自分の言葉で説明していた。



「消火器安全チーム」は、阪神大震災の時の被害状況や消火器の使用方法を図で説明し、父兄等参加者に消火器を使つて的に向かって体験させていました。



子どもたちの努力と学習能力の高さ、その成果を見ると、「地域」が「学校」の教育に協力するこのような取り組みは今後とも継続したいものだと思えてきます。コミュニティ・スクール(学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むこと)の好例と言えるのではないのでしょうか。